

平成 22 年度地域企業立地促進等事業費補助金
「中部地域航空宇宙関連産業集積活性化活動事業」
活動報告

社団法人中部航空宇宙技術センター
平成 23 年 3 月

目次

1. 事業の目的	P. 1
2. 実施体制及び実施スケジュール	P. 1
(1) 実施体制	P. 1
(2) 実施スケジュール	P. 1
3. 実施内容	P. 1
(1) ネットワーク形成支援事業	P. 1
i. 地域連携マネージャーの配置	P. 2
ii. 調査員の配置	P. 2
iii. 専門家派遣制度	P. 2
(2) 研究開発支援事業	P. 4
i. 技術シーズ発表会	P. 4
ii. 技術高度化研究会	P. 6
(3) 販路拡大支援事業	P. 7
i. ファンボローエアショー出展支援	P. 7
ii. シンポジウム・テクノフェア開催	P. 8
iii. セミナー・ビジネスマッチング開催	P. 10
iv. MRO研究会	P. 12
v. 無人機研究会	P. 14
vi. ビジネス航空を軸とした次世代型国際都市づくり研究会	P. 16
vii. 海外市場動向調査（委託調査）	P. 18
4. まとめ	P. 21

別紙 1	実施体制	P. 25
別紙 2	実施スケジュール	P. 26
別紙 3	専門家派遣制度の案内・派遣依頼書・専門家一覧	P. 27
別紙 4	技術シーズ発表会 開催案内	P. 32
別紙 5	技術シーズ発表会 アンケート集計	P. 33
別紙 6	航空宇宙産業フォーラム 開催案内	P. 34
別紙 7	航空機関連産業新規参入セミナー 開催案内	P. 35
別紙 8	航空宇宙シンポジウム 2010 開催案内	P. 36
別紙 9	航空機部品供給システム研究会 第6回定例講演会案内	P. 37
別紙 10	輸出管理セミナー 開催案内	P. 38
別紙 11	第2回航空機産業新規参入セミナー 開催案内	P. 39
別紙 12	第2回輸出管理セミナー 開催案内	P. 40
別紙 13	MRO研究会・無人機研究会・BJ研究会 委員・オブザーバリスト	P. 41

1. 事業の目的

これまでに航空宇宙産業フォーラム及び産業クラスター（東海ものづくり創生協議会）の施策を通じて構築されてきた当地域の企業間ネットワーク、更には産学官ネットワークを最大限に活用し、航空宇宙関連産業の集積企業群全体として産業競争力を高めていくことが重要である。

本事業では、当地域において航空宇宙関連産業クラスターの形成を目指して、①ネットワーク形成、②研究開発、③販路開拓の3つの事業を中心に、産学官連携の緊密化、国内外関係との連携強化を図り、当地域における航空宇宙関連産業の世界シェア拡大と当地域がアジアNo.1航空宇宙関連産業集積地となることを目指すものとする。

2. 実施体制及び実施スケジュール

（1）実施体制

航空宇宙産業集積活性化ビジョンに参加する3県の10協議会（愛知県；東尾張地域及び西尾張地域、岐阜県；岐阜地域、西濃地域、中濃地域及び東濃地域、三重県；三河地域、鈴鹿地域、津地域及び伊賀・名張地域）を構成員とする。

別紙1 実施体制表を参照。

（2）実施スケジュール

平成22年5月26日～平成23年3月31日間、実施した。

別紙2 実施スケジュールを参照。

3. 実施内容

本活性化活動事業では次の3事業を実施した。

（1）ネットワーク形成支援事業

地域における産学官の広域的な人的ネットワークを深化させ、本事業に参加する地域関係機関、及び企業のニーズが集約できるネットワーク構築を促進するため、地域連携マネージャーを配置するとともに、専門家派遣制度を構築した。

また、各事業の個別案件への対応も可能なように、必要な調査員を配置して事業の円滑な遂行を図った。

i. 地域連携マネージャーの配置

大手機体メーカーでの航空機開発、産官学のコーディネーター等の経験者から以下の6名を地域連携マネージャーとして委嘱し、各事業を分担して運営・管理、事業計画の企画立案や適切な実行のための指導、事業評価等を行うとともに、他地域関係機関との連携拡大・協力関係の構築にあたった。

<u>マネージャー</u>	<u>主な担当事業</u>
◆炭田潤一郎：無人機研究会、専門家派遣の支援、新規参入促進支援、海外エアショーア出展支援、国内のセミナー・テクノフェアの支援等	
◆田島暎久：MRO研究会、専門家派遣の支援、新規参入促進支援、海外エアショーア出展支援、国内のセミナー・テクノフェアの支援、委託調査事業等	
◆古澤正人：MRO研究会、専門家派遣の支援、新規参入促進支援、海外エアショーア出展支援、国内のセミナー・テクノフェアの支援、委託調査事業等	
◆江口正臣：技術高度化委員会、技術シーズ発表会、専門家派遣の支援、新規参入促進支援、国内のセミナー・テクノフェアの支援等	
◆桑原好孝：技術高度化委員会、技術シーズ発表会、専門家派遣のとりまとめ、国内のセミナー・テクノフェアの支援等	
◆石原達也：ビジネス航空を軸とした次世代型国際都市づくり研究会、国内のセミナー・テクノフェアの支援等	

ii. 調査員の配置

本事業における広域ネットワーク形成及び販路開拓支援事業に係わる以下の調査を行うために、調査員2名を委嘱した。

- ①航空機用新素材等複合材研究開発分野に関する調査
- ②海外販路開拓に伴う航空宇宙展への参加及び補助金活用についての調査

iii. 専門家派遣制度（別紙3参照）

当地域には、昨年度まで実施されてきた産業クラスター計画の施策に基づいて企業間連携あるいは産学官連携というネットワーク形成事業の実績が蓄積されてきている。

先の産業クラスター計画では、クラスター形成事業において専門家派遣制度を設けて企業間連携あるいは産学官連携の促進に繋げたが、本事業においても同様な専門家派遣制度に基づいて連携事業への展開を図った。航空機産業においては、航空機部品の品質保証並びにその認定制度が他産業に比べて極めてシビアであり、その情報支援・技術開発支援を実施していくためにもこの分野で実務実績を積んだ経験者を専門家として配置することが必要であることから、本事業に配された6名の地域連携マネージャーが推薦した28名の専門家を選定した。そして、事業展開の中核として、中小企業への航空機産業の品質保証等の一般情報支援並びに製造技術支援等の指導等を、原則的には地域連携マネージャーと一体となって実施してきている。

【平成22年度における専門家派遣の実績】

この専門家派遣制度は事案に応じて、事務局が事業展開を図る上で専門家の経験・知識の活用を必要とする場合（事務局依頼）と、中小企業からの専門家派遣依頼に基づくものの（派遣依頼）に大別される。

●事務局依頼に基づく派遣実績

平成22年7月18日～25日の期間に英国ファンボローにおいてエアショーが開催された。このエア・ショーに我国の航空機産業の状況をアピールするために展示参加を行ったが、その出展準備とファンボローでの開催支援を依頼した。この事案では2名の専門家に対して延べ15人回の実績。

この他には、航空機産業へ新規参入を指向している企業が中部経済産業局に問い合わせを希望した件に、局から技術的な対応が必要との判断で専門家派遣要請があり、1人回の実績。

●企業からの派遣依頼に基づく実績

企業からの専門家派遣依頼については、その要望課題を整理してまとめると以下のようになる。

- ・航空機産業において展開でき得るか自社技術評価について…3人回の実績。
- ・保有する自社技術の品質高度化に対しての技術支援…17人回の実績
- ・自社製品の航空機産業への販路開拓支援…7人回の実績

◆平成22年度 アドバイザー活動状況

①アドバイザー数：28名

②アドバイザー派遣実績：活動総計43人回

事務局依頼：3件16人回 派遣依頼：8社27人回

(2) 研究開発支援事業

中堅・中小部品サプライヤーが、大手重工メーカー等のいわゆる川下メーカーのニーズを汲み取り、単独で研究・開発・提案していくのは膨大な時間・労力を要するところであり、产学連携による中堅・中小部品サプライヤーの技術高度化を推進するための以下の支援活動を実施した。

- ・中堅・中小部品サプライヤーの抱える技術課題解決のため、専門家派遣制度を実施し、専門家による企業間連携コーディネート、产学連携体制の構築を支援。
- ・大学・公的研究機関等の技術シーズの発表会や各機関との連携を促進する場を提供し、航空機関連産業への技術移転を支援。
- ・技術高度化研究会の立ち上げ。

i. 技術シーズ発表会

【目的】

航空機関連産業の今後の成長拡大予測に対応し、中小企業の CFRP 複合材料をはじめとする難削材の加工技術の高度化を進め、裾野を広げることが急務である。そのために、大学・公的研究機関等の技術シーズを中小企業のニーズにマッチングさせる場を提供することが要望されており、開催を実施した。

【計画】

航空機関連産業では CFRP 複合材等の難削材が多く使われている。この加工技術は、一般的なドリルによる孔あけ加工、切削加工、ウォータージェット加工、レーザー加工等に関する技術の高度化が盛んに検討されている。また、加工後の表面処理技術や部品点数を少なくし、軽量化のために接着・溶接技術の高度化も広く検討されている。

これらの加工技術高度化を促進させるために、技術高度化委員会を立ち上げ、(株)最新レーザ技術研究センターの沓名宗春氏（代表取締役）に委員長を依頼し、技術シーズ発表会を開催することにした。まず発表会の講演テーマを「中部の技術シーズ」等から 5 件抽出し、大学・公的研究機関等に講師を依頼した。

【技術シーズ発表会の開催】

技術シーズ発表会の詳細は、技術シーズ発表会の開催案内（別紙 4）参照。

また、当日参加者には講演内容のパンフレットを配布した。

- ・日 時：平成 22 年 1 月 25 日（木）13：25～16：50
- ・場 所：名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや）
交流センター 3 階 第 4 会議室（講演）第 3 会議室（相談コーナー）
- ・参加者：101 名
- ・概 要：参加者は定員 100 名に対し、ほぼ満席状態で、航空機関連産業への進出に対する関心の高さが感じられた。これは、「航空宇宙シンポジウム 2010」の開催に合わせたことにより、参加を促すことになったと思われる。
講演は、基調講演として、「レーザー技術」、一般講演として、「切削加工技術」、「孔あけ加工等の機械加工」、「表面処理技術（電子 PVD 法）」、「CFRP 成形技術（VaRTM 法）」の 5 件をお願いした。

また、講演の加工技術高度化に対する技術相談は、申込み数は当初約20件あったが、同時開催の「航空宇宙シンポジウム2010」の展示企業とのビジネスマッチングと面談時間の重複等もあり、6件の個別面談が行われた。特に関心があったのは、CFRP成形技術（VaRTM法）であり、中小企業においてもCFRP複合材への取り組みが進められていることが伺われた。



技術シーズ発表会 講演会場



技術相談コーナー

【アンケート調査結果】

技術シーズ発表会の参加者の感想を把握するため、アンケート調査を実施した。

アンケートの回収率は、約33%であった。アンケート集計結果は、別紙5参照。

・発表テーマに対する感想

全般では、「非常に参考になった+参考になった」で、100%の評価を得た。また、個別のテーマについても、平均91%の高い評価を得た。

・発表テーマ数内訳

丁度よい（73%）、テーマ数を絞る（15%）、テーマ数を増やす（12%）

・発表時間内訳

丁度よい（62%）、時間を長くテーマ数減（19%）、時間を短くテーマ数増（12%）

・開催通知情報源内訳

HP（29%）、ちらし（29%）、官公庁紹介（18%）、メルマガ（18%）

全般的には、参加者も満席であり好評を得た。今回の技術相談内容をベースに、今後技術高度化委員会で協議し、産学官連携による技術高度化研究会を立ち上げ、事業化を見据えた活動に結び付けていく予定である。

ii. 技術高度化研究会

今年度は、技術シーズ発表会および技術相談会の開催を目的として、技術高度化委員会を立ち上げた。委員長は、(株) 最新レーザ技術研究センターの沓名宗春氏（代表取締役）にお願いした。

開催した「技術シーズ発表会及び技術相談会」の結果から、技術高度化研究会への課題抽出をした。また、併行して取り組んだ他事業の「地域新成長産業創出促進委託事業」で開催した「技術融合・異分野参入促進セミナー及び個別相談会」において抽出した技術課題と合わせ、来年度に向けて、技術高度化委員会の分科会として、いくつかの技術高度化研究会を立ち上げる予定である。

抽出された技術課題は、下記のようなテーマである。

- ・ CFRP と金属板との接着品のレーザー加工による歩留まり向上
- ・ CFRP 及び CFRP／金属複合材料におけるバリなしレーザー加工
- ・ 切削加工におけるびびり振動抑制技術確立のためのソフトと防振技術との融合
- ・ CFRP の研削加工による加工精度向上とデラミネーションの抑制
- ・ CFRP 積層接合リベット専用穿孔ドリル及び穿孔装置開発
- ・ VaRTM に関する成形技術高度化
- ・ 個別商談会からクローズドなテーマとして、抽出されたテーマ

CFRP の多層接着、ハニカム構造による軽量化

チタン材の内歯スプライン加工

装備品メーカーから、2件の新技術開発案件が示唆されている。

(3) 販路拡大支援事業

これまでの国内中堅・中小部品サプライヤーは、国内の大手重工メーカーを納入先とすることが多く、今後、更なる受注拡大を図るために、海外機体メーカー及び Tier1 メーカーから直接受注を獲得していくことが重要である。

このために以下の支援活動を行った。

- ・海外販路開拓に意欲があり、かつ、海外メーカーと直接取引を行う能力を備えた中堅・中小部品サプライヤーを対象に、世界各地で開催されるエアショーでの商談会開催支援。
- ・海外メーカー及び航空宇宙関係クラスター機関を日本へ招聘し、セミナー及び商談会の開催。
- ・これらの事業を遂行するにあたっては、これまで自ら海外販路開拓を行った経験がない中堅・中小部品サプライヤーが多い事から、専門家（アドバイザー）を派遣し、海外メーカーとの商談・プレゼンスキル、リスク管理と言ったノウハウ獲得のための支援。
- ・中堅・中小部品サプライヤーの受注拡大のため、現在日本では未開拓市場である PMA 部品、MRO 市場への参入可能性及び中部地域における MRO 拠点整備の実現可能性について検討するための研究会の立ち上げ。
- ・今後の発展が期待されるビジネスジェット機の動向、活用及び将来展望に係わる研究会の立ち上げ。
- ・世界的に勃興期を経て発展期にあり、今後大きな躍進を確信できる状況にある無人機部門について、今後日本でも産業としての成長させていくための研究会の立ち上げ。

また、今後、戦略的に海外市場へ打って出していくための海外展開戦略の構築の資とするために、新興国・欧米等の航空機関連海外市場動向調査を外部委託業務として実施した。

i. ファンボローエアショー出展支援

2010 年 7 月に英国で開催された「ファンボロー・エアショー2010」に航空宇宙産業フォーラムとして参加した海外販路開拓に意欲のある中堅・中小企業 31 社について以下の支援を行った。

事務局：「ファンボロー・エアショー2010」出展支援事業実行委員会

日 時：平成 22 年 7 月 19 日～25 日の内のトレード・デー（19 日～23 日）

場 所：英国ファンボロー空港

支援内容：①企業の PR 用パンフレット作成支援

②企業の現地プレゼンテーション用資料の作成支援

③シャレーでの海外企業とのマッチング支援

④出展会場の海外企業ブースでの商談支援等

支援メンバー：地域連携マネージャー 3 名、専門家 2 名

ii. シンポジウム・テクノフェア開催

- ①中部大学フェア 2010 一産学官連携・人づくり・ものづくり・ゆめづくり－
主 催：中部大学
日 時：平成22年9月18日（土）10：00～17：00
場 所：中部大学 キャンパス内（春日井市松本町1200番地）
来場者数：390名
内 容：中部大学が進めている全学部の研究者の技術シーズをブース形式にて紹介。
中部地域の航空宇宙関連企業の支援及びネットワーク形成等のため出展。
パネル展示等にて航空宇宙産業フォーラムの取り組みを紹介。

②航空宇宙産業フォーラム 2010（別紙6参照）

主 催：航空宇宙産業フォーラム、在日米国商工会議所中部支部（ACCJ）、
グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会（GNIC）

日 時：平成22年10月6日（水）13：30～16：30
場 所：名古屋マリオットアソシアホテル 16F 『アゼリア』
(名古屋市中村区名駅一丁目1番4号)

参加者数：194名

講演内容：

講演1 13：35～14：45

「ボーイング民間航空機部門の最新航空市場予測」

ボーイング副社長

ランディ・ティンセス 氏

講演2 14：55～16：00

「Boeing 787 Dreamliner, Made with Japan」

ボーイング・ジャパン社長 マイケル・デントン 氏

講演3 16：00～16：30

「在日アメリカ商工会議所航空宇宙防衛産業小委員会-中部概要」

委員長 マイク・ライト 氏



③しんきんビジネスマッチング 第6回「ビジネスフェア 2010」

主 催：社団法人東海地区信用金庫協会

日 時：平成22年11月5日（金）10：00～17：00

場 所：ポートメッセなごや

（名古屋市国際展示場：名古屋市港区金城ふ頭二丁目2番）

来場者数：11,000名

内 容：東海地区（岐阜県・静岡県・愛知県・三重県）を中心とした幅広い業種・分野が一堂に集結し、価値ある出会いと新たな可能性をひらく、事業意欲旺盛な企業経営者のためのビジネスマッチング・イベント。

中部地域の航空宇宙関連企業の支援及びネットワーク形成等のため出展。

パネル展示等にて航空宇宙産業フォーラム及び当センター事業の紹介並びに

新規参入や研究開発、人材育成等に係る相談対応を実施。

④リーディング産業展みえ 2010

主 催：リーディング産業展みえ 2010 実行委員会

日 時：平成22年11月5日（金）6日（土）10：00～17：00

場 所：四日市ドーム（四日市市大字羽津甲5169番地）

来場者数：6, 911名

内 容：三重県を基盤として新技術や新製品の開発に取り組む企業のチャレンジ活動を促進し、自らの開発した技術や製品をアピールし販路拡大に結びつける機会や不足しがちな経営資源に関する情報を入手する機会を確保するためのイベント。

中部地域の航空宇宙関連企業の支援及びネットワーク形成等のため出展。

パネル展示等にて航空宇宙産業フォーラム及び当センター事業の紹介並びに新規参入や研究開発、人材育成等に係る相談対応を実施。

また、第1セミナーアー会場にて開催の次の講演会についても支援。

講 演：航空機関連産業新規参入セミナー（参加者数：77名）（別紙7参照）

平成22年11月5日（金）14：00～15：00（第1セミナーアー会場）

「航空宇宙産業の現状と見通しと参入環境について」

株式会社航空システム研究 代表取締役 炭田 潤一郎 氏

⑤航空宇宙シンポジウム 2010（別紙8参照）

主 催：航空宇宙シンポジウム実行委員会、航空宇宙産業フォーラム

開 催 日：平成22年11月25日（木）～11月27日（土）

場 所：ポートメッセなごや

（名古屋市国際展示場：名古屋市港区金城ふ頭二丁目2番）

入場者数：講演会参加者 1, 195名、展示会入場者 11, 002名

内 容：航空宇宙産業を取り巻く近年の大きな環境変化を踏まえ、最新の動向や最先端技術などについて情報発信をするとともに、他産業の企業を対象として新たなビジネスチャンスの機会を提供することによって、航空宇宙産業に振興を支援することを目的として開催。

展示会、講演会及び商談・相談会の開催を支援。

尚、交流センター3階第4会議室にて技術シーズ発表会を同時開催（25日）

iii. セミナー・ビジネスマッチング開催

①「航空機部品供給システム研究会」第6回定期講演会（別紙9参照）

主 催：愛知県、（社）中部航空宇宙技術センター、航空宇宙産業フォーラム

日 時：平成22年6月2日（水）13：30～16：30

場 所：中電ホール（名古屋市東区東新町1）

参加者数：291名

講演内容：

講演1 13：40～14：40

「航空機構造組立の現状と課題」

三菱重工業株式会社 名古屋航空宇宙システム製作所

生産性改善グループ 主席チーム統括 中村 好孝 氏

講演2 14：50～16：20

「『資材管理』が経営を変える」

Tsuruta L.L.P 代表（コンチネンタルエアーライン 元上級副社長）

鶴田 国昭 氏

②第1回輸出管理セミナー（別紙10参照）

主 催：名古屋市、（社）中部航空宇宙技術センター

日 時：平成23年2月10日（木）15：30～17：30

場 所：名古屋商工会議所 3階 第5会議室（名古屋市中区栄2-10-19）

参加者数：65名

講演内容：輸出管理の基本

①輸出管理とは

②輸出者等遵守基準

③該非判定の方法

④輸出許可申請

（財）安全保障貿易情報センター内 中小企業輸出管理支援センター

輸出管理アドバイザー 跡部 正明 氏 他1名

③第2回航空機産業新規参入セミナー（別紙11参照）

主 催：三重県、（社）中部航空宇宙技術センター

日 時：平成23年3月16日（水）13：30～16：30

場 所：高度部材イノベーションセンター PRホール（四日市市塩浜町1-30）

参加者数：38名

講演内容：

講演1 13：40～15：20

「航空機機体の技術と構造」

（社）中部航空宇宙後術センター 地域連携マネージャー 古澤 正人 氏

講演2 15：30～16：30

「航空エンジンの技術と構造」 阿部技術士事務所 所長 阿部 駿一郎 氏

④第2回輸出管理セミナー（別紙12参照）

主 催：名古屋市、（社）中部航空宇宙技術センター

日 時：平成23年3月29日（火）13：30～17：00

場 所：名古屋商工会議所 5階 会議室D（名古屋市中区栄2-10-19）

参加者数：67名

講演内容：輸出実務の基本

①輸出基本業務フロー

②輸出通関業務並びに輸出貿易管理令の基本説明

③通関関係書類作成（輸出品評価格等）

郵船ロジスティクス株式会社 中日本営業本部 開発課 藤田 聰史 氏

iv. MRO研究会

【実施内容及び方針】

当該地域の中小企業が、MRO 関連事業に参入するための具体的系口などの調査成果を目指して MRO 研究会を設立し、合計 3 回の研究会を開催した。

MRO 関連事業の川下企業とそれに関心のある中小企業及び大学の有識者を委員とし、中部経済産業局と当該地域自治体の産業政策担当者及び関心のある企業をオブザーバーとして研究会を組織した。

活動内容については、MRO 業界全般の動向から始まり、中小企業の参入可能な分野へと徐々に焦点を絞って議論を進め、具体的な事案として研究会内部において川下企業と川上企業によるビジネス・マッチングを試行した。

【委員構成】 委員・オブザーバーリスト参照（別紙 1 3）

【委員会開催】

① 第 1 回研究会

- ・ 日 時：平成 22 年 10 月 14 日（木）14：00～17：00
- ・ 場 所：ウインクあいち 1303
- ・ 参加者：32名（委員：14名、オブザーバー：12名、事務局：6名）
- ・ 内 容：事務局より広域ネットワーク事業における MRO 研究会の位置付けとその意義を説明して委員一同の理解と合意を得た。委員長が我が国の MRO 事業の現状と今後の動向について概説、紹介した後、事務局より当該地域で直近の数年間に実施された MRO・PMA 事業に関する調査研究について報告が行われた。これらの情報と各委員の知見に基づいて本研究会の具体的活動と成果をめぐって活発な議論が展開された。特に具体的な出口とスケジュールを策定することが必用不可欠と認識、合意されて、中小企業の参入機会が高いと思われる PMA 部品について機体、エンジン、装備品の各分野別に議論が集中した。これらの議論を反映した活動計画案を事務局で策定することになった。

② 第 2 回研究会

- ・ 日 時：平成 23 年 1 月 20 日（木）14：00～16：30
- ・ 場 所：ウインクあいち 1103
- ・ 参加者：26名（委員：14名、オブザーバー：8名、事務局：4名）
- ・ 内 容：前回研究会の議論に基づいて事務局で策定された活動計画案が提議され、委員一同の合意を得て承認された。この活動計画の骨子は、具体的な成果を想定した研究会内における川下企業と川上企業間のビジネス・マッチング試行である。最初のビジネス・マッチング試行として、川下企業である多摩川精機（株）と三徳航空電装（株）により大型旅客機運航会社における装備品の MRO ニーズ調査結果が紹介された。両社と中小企業が協同することにより MRO 受注を目標にする試みである。11 月にシンガポールで開催された「MRO アジア国際会議・展示会」の出張報告が事務局より行われた。

③ 第3回研究会

- ・ 日 時：平成23年2月28日（月）14：00～16：50
- ・ 場 所：セントラルヘリコプターサービス株式会社（県営名古屋空港内）
- ・ 参加者：31名（委員：10名、セントラルヘリコプターサービス（株）：6名、オブザーバー：9名、事務局：6名）
- ・ 内 容：セントラルヘリコプターサービス（株）の整備工場見学に続いて、同社によるビジネス・マッチング試行が行われた。同社から整備工程で必要な部品修理など、中小企業で対応可能な項目が紹介された。これら可能性のある項目をめぐって、活発な議論が展開されてMRO事業に対する理解が深まった。これとは別に、複数の委員からMRO事業参入についての独自調査資料が配布紹介され、次年度活動計画策定の参考資料として活用することになった。



【まとめ】

MRO事業に対する広範な議論やこれまでに実施されたMRO・PMA調査結果を踏まえて、中小企業のMRO事業参入の可能性を目指して具体的な出口とスケジュールを盛り込んだ活動計画を策定した。それに従って、研究会内における川下企業と川上企業とのビジネス・マッチング試行として川下企業のニーズが紹介された。川下の大企業からニーズを中小企業に提案する、いわゆる逆見本市である。次年度は、このビジネス・マッチング試行の進展を追尾調査した後に、同様のビジネス・マッチングを公開して行うことを目指す。

v. 無人機研究会

【実施内容及び方針】

世界での無人機展開は、まさにその勃興期を経て発展期にあり大きな躍進を確信できる状況にある。一方日本では、近年民間利用分野での研究は盛んで一つの分野を築きつつあるもののまだ産業としての成長には程遠いものがあり、今、中小企業にその能力を移してこの産業基盤を確立させ発展が期待できるものにしていく必要性がある。

このため、世界の動向調査に基づいた日本における無人機ビジョンを検討するとともに、短期的に求められるシステムと適用方法を検討する。

具体的には他例のないテール・シッター型の機体と地上システムを中心とした、容易な操作による運用性が高く低コストで実用的小型無人機システムとする開発を中心展開することを検討するとともに、研究開発関連補助金事業等への展開ができるスキームを設定する。

【委員構成】 委員・オブザーバーリスト参照（別紙13）

【委員会開催】

① 第1回研究会

- ・ 日 時：平成22年10月22日（金）10：00～12：00
- ・ 場 所：ウインクあいち 1008
- ・ 参加者：25名（委員：11名、オブザーバー：11名、事務局：3名）
- ・ 内 容：世界と日本における無人機現状の認識。

対象とすべき無人機に対しての意見交換/委員間アンケート実施を決定
無人機運用過去例検討/委員経験事例交換

② 第2回研究会

- ・ 日 時：平成22年11月29日（月）10：00～12：00
- ・ 場 所：ウインクあいち 1101
- ・ 参加者：23名（委員：11名、オブザーバー：9名、事務局：3名）
- ・ 内 容：検討対象無人機システムへのアンケート結果の集約と議論
 - 垂直離着陸方式の無人機はそれなりの意味を持つ。そのなかでテール・シッタを検討する。
 - ミッションとしてはカメラ観測を必要とするものが効果的。
 - システムの使い方について議論。自治体へのユーザーアンケート実施を決定。
 - ビジネスとしていくためにはユーザ設定が必要

③ 第3回研究会

- ・ 日 時：平成23年1月17日（月）10：00～12：00
- ・ 場 所：ウインクあいち 1203
- ・ 参加者：19名（委員：9名、オブザーバー：7名、事務局：3名）
- ・ 内 容：ユーザーに対するアンケートの集約と議論

無人機システムのイメージがわからない、といった意見もあり、まだ教宣が必要。

植生観察目的として提案していくことを決定。

平成23年度年度活動計画の検討。

予算は、経済産業省の戦略的基盤技術高度化支援事業で「組み込みソフト」分野での応募とし、その体制を設定。ベストテック(株)を取りまとめ企業とする。

④ 第4回研究会

- ・ 日 時：平成23年3月11日（金）13：30～16：30
- ・ 場 所：C-ASTEC 会議室
- ・ 参加者：15名（委員：7名、オブザーバー5名、事務局：3名）
- ・ 内 容：今年度のまとめと今後の活動について、本地業の主要メンバーにて協議。

平成23年度公募に対しての具体的な体制の確認と分担を協議。

(株)ヴィッツを加え、組み込みソフトとしての提案方法に対する意見をもらうこととする。

【まとめ】

- 1) 森林、里山、農場等に対しての植生観察を目的とし、緊急時には災害監視も任務とできる垂直離着陸型の無人機システムの開発研究を行う。
- 2) 無人機システムの対象は場所を取らない垂直離着型のうち、行動効率よく運用可能なテール・シッタ方式とし、具体的にはこの開発ステップの中で最適形態を選択する。
- 3) 誰でも容易に運用できる自律型のシステムを目指して、地域サポイン「組み込みソフト」分野での平成23年度から3ヵ年の事業予算獲得を信頼性、安全性、標準化をキーワードとして目指す。プラットフォームによらない標準地上システムもそのひとつ。
- 4) 実施体制は、ベストテック(株)を取りまとめ企業とし、(株)ゼノクロス、日本電気(株)(NEC)、X-TREME COMPOSITE JAPAN、東京大学、九州大学、(独)宇宙航空研究開発機構(JAXA)、(株)航空システム研究、等としたチーム体制とする。

vi. ビジネス航空を軸とした次世代型国際都市づくり研究会

【実施内容及び方針】

2009年から当地でMRO（航空機受託整備産業）の研究がスタートし、欧州のMROクラスターとの交流も進んだ。日本でも同様の産業が成立する可能性を調べたところ、欧米などでMROの重要なマーケットとなっているビジネスジェット（以下BJ）が、日本にはほとんど存在しないことがネックとなっていた。名古屋圏は日本初の本格BJ拠点空港である県営名古屋空港と、中部国際空港の連携で、日本で最もBJの国際運航環境が発達した地域だったこともあり、BJの発着量増加を目指し、MROのマーケット形成に結びつける可能性を探ることになった。そのためには、BJが盛んに発着している都市の事例、世界のBJの利用動向、日本で利用が進んでいない背景などを掘り下げる必要があり、グローバル経済・企業経営・社会インフラといった複合的な要素が絡むため、都市工学の専門家に委員長を、航空・空港関係者、シンクタンクや経済団体の関係者に委員を依頼した。

【委員構成】 委員・オブザーバーリスト参照（別紙13）

【委員会開催】

① 第1回研究会

- ・日 時：平成22年10月4日（月）14：00～17：00
- ・場 所：ウインクあいち 1004
- ・参加者：21名（委員：9名、オブザーバー：9名、事務局：3名）
- ・内 容：世界の動向と、当地および日本の現状

まずは世界のBJの利用動向と日本の現状について、情報の共有を図った。航空機産業界からの出席者からは、日本でも航空機の利用が盛り上がりなければ、造る側の発展も厳しいとの意見もあった。インバウンド（海外既存ユーザーの飛来を増やす）とアウトバウンド（地元企業への利用促進）の両面から、発着量の増加の可能性を検証した。実際の海外ユーザーの飛来動向からも、インバウンドの増加は短期的には厳しい、との意見が多く、アウトバウンドを中心に方策を考えることになった。日本の利用環境整備の遅れについても問題提起された。

② 第2回研究会

- ・日 時：平成22年12月3日（金）14：00～17：00
- ・場 所：AP名古屋 7階 Jルーム
- ・参加者：18名（委員：10名、オブザーバー：4名、事務局：4名）
- ・内 容：企業への利用促進策について

地元企業への利用促進策について、ニーズ調査を行うべきか、プロモーションを優先すべきかを議論した。大半の日本企業の抱くBJに対するイメージと、諸外国企業におけるBJの利用実態の間の乖離が大きい現状では、潜在的なニーズを正確に調べるには時期尚早との意見が多く、周知啓発を優先することに決まった。また、当地2空港の提供できる利用環境について

ても意見交換が進んだ。

③ 第3回研究会

- ・日 時：平成23年3月4日（金）14：00～16：30
- ・場 所：AP名古屋 8階 E+F+Gルーム
- ・参加者：19名（委員：8名、オブザーバー：5名、事務局：6名）
- ・内 容：セミナー内容及びヴィジョン策定について

都市機能の観点から、当地における BJ の役割を、セントレアの国際定期路線網が縮小する中、当地グローバル企業のホームベース機能を担う一翼として位置づけた。グローバルなビジネス活動におけるソリューションとしての BJ を、当地企業がどう評価するか、意見交換会を開くことを決定した。その他の周知啓発策についても意見交換が進んだ。

【まとめ】

- 1) 実際の利用動向も踏まえて議論した結果、海外ユーザーの主たる目的地となり得るのは圧倒的に首都圏であり、インバウンドの増加は短期的には厳しい。
- 2) 「BJ=富豪の贅沢品」というイメージのみが広まっており、グローバル・ビジネスでの活用例が紹介されていない現状では、潜在的ユーザーのニーズを正確に調査できる可能性は低く、まずは BJ 利用のメリットについて周知啓発が必要である。
- 3) BJ に対する周知啓発を進めるにあたり、空港インフラや法制度など利用環境の整備が十分でない日本の現状では、その活用メリットを完全に提示することには限界がある。しかし民間ユーザーが増えれば、行政も利用環境整備を積極的に推進しやすくなる。
- 4) そこで民間企業に、グローバル・ビジネスとビジネス航空の関係について正確な情報を提供した上で、利活用の妥当性に関する見解（コストを含め、利用環境がどの程度まで整えば、自社での利活用が現実味を帯びてくるか、など）も含めた意見交換が必要である。利用環境整備など行政への要望に関わる意見が出た場合、企業の承諾を得た上で業界の中心となって要望活動を展開している NPO 法人日本ビジネス航空協会 (JBAA) に協力を求める。次年度は意見交換会を開催する。これ以外にも、BJ の利用動向などから、外部講師を招いて諸外国企業のグローバル経営のあり方を考察するセミナー開催は今後の課題とする。

vii. 海外市場動向調査（委託調査）

今後、国内中小企業が戦略的に海外市場へ打って出していくための海外展開戦略の構築に向けて、新興国・欧米等を対象に次の2件の航空宇宙関連市場動向調査を行った。調査は外部委託業務方式で実施した。

①平成22年度新興国航空機関連産業動向調査委託事業

1) 事業の目的

海外市場、主に航空機関連産業新興国である韓国、台湾における政府機関の取組みや関連産業・企業の現状及び動向等を調査し、中堅・中小部品サプライヤーとアジア新興国有力企業とのマッチング及び今後の国際交流に繋げて行くための資とする。

2) 調査委託

調査委託事業にあたり、委託業者を公募し入札・審査の結果、三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）を委託業者に選定し事業を実施した。

調査実施期間 平成22年10月8日～平成23年1月31日

3) 調査実施内容

アジア地域の航空機関連産業新興国、特に韓国、台湾について、政府の取組み、部品製造企業等の関連産業の市場、企業戦略等の現状と動向を調査し、調査結果をまとめた。

調査実施に当たっては文献等による調査の他、訪問形式によるヒヤリング調査を実施した。現地ヒヤリング調査は以下のように実施した。

訪問機関・企業

韓国（平成22年12月19日～26日）	台湾（平成23年1月9日～15日）
①Korea Aerospace Industries Association ②DOHA Industry Co., Ltd ③HYUNDAI WIA CORP ④Korean Air Line Co., Ltd (Tech Center) ⑤Shin Seung Precision Industry, Ltd ⑥S & K AEROSPACE CO., LTD ⑦Aerospace Technology of Korea, Inc. ⑧HIZE AERO Ltd. ⑨KOREA AEROSPACE INDUSTRIES, Ltd	①経済部航太産業発展推進小組 ②台灣區航太工業同業公會 ③天陽航太科技股份有限公司 ④拓凱實業股份有限公司 ⑤漢翔航空工業股份有限公司 ⑥榮鋼材料科技股份有限公司 ⑦晟田科技工業股份有限公司 ⑧駐龍精密機械股份有限公司 ⑨公準精密工業股份有限公司 ⑩長亨精密股份有限公司

4) 調査結果（概要）

調査結果報告（概要）を以下に示す。また、細部調査報告は「平成22年度新興国航空機関連産業動向調査委託事業 海外市場動向調査 報告書」による。

韓国および台湾においては、中小の航空機関連企業が従来のいわゆるTier1の下でのサプライチェーンに加えて、海外のプライムまたはTier1等の企業との独自、直接のビジネス展開に積極的であり、かつ成果を納めている。また、新たなサプライチェーン構築の動きも見られる。

我が國の中堅・中小サプライヤーにおいても、これらの新興国有力企業等とのマッチングや国際交流を通して、効果的な海外展開戦略を構築して行く必要がある。

◆調査結果報告（概要）

【調査方法】

韓国、台湾の航空機産業について、IAQG サプライヤーリスト及び NADCAP サプライヤーリストから認証取得企業を抽出し（IAQG 認証取得企業：韓国 136 事業所、台湾 57 事業所、NADCAP 認証取得企業：韓国 26 事業所、台湾 15 事業所）政府刊行物、新聞、企業ホームページ等に資料をベースに情報収集を実施した。

次いで、韓国、台湾の航空機工業会、政府機関及び主要企業等を訪問し、ヒヤリングによる情報収集および資料収集を実施した。

【調査結果】

- 1) 韓国は、工業団体の KAIA、2 大企業の KAI、KAL、及び泗川市の航空機産業クラスターの中小企業等を訪問して、韓国サプライチェーンの状況等をヒヤリングした。また、文献等により、「航空機産業発展基本計画（VISION 2020）」など政府の政策を把握した。韓国航空機産業の特徴としては、中小企業においても輸出志向が強く、ロシアと取引する企業もあるなど国際化に対して積極的な取り組みが行われていることがあげられる。また、ボーイング等の Tier1 企業としては価格競争力が強い。
- 2) 台湾は、政府経済部（CASIDA）及び工業団体（TAIA）より台湾の航空機産業クラスター等の政策、将来計画等をヒヤリングした。また、台湾最大メーカーの AIDC、世界最大級の複合材メーカーの TOPKEY、台中、台南の主要中小企業を訪問し、事業状況、技術開発動向、サプライチェーン、对中国戦略等をヒヤリングした。台湾航空機産業の特徴は、AIDC を中心とした国際サプライチェーンが形成されていること、また AIDC 以外の新たなサプライチェーン形成の取組みが進められていること、MRO ビジネスの展開が進んでいること、さらに中国とのネットワークを有して对中国ビジネスを展開している企業が見られること等があげられる。
- 3) 両国ともに、日本企業の高い技術力を評価しており、受注を期待する企業が多く見られた。台湾企業からは、日本をパートナーとして中国市場に展開するという提案もあった。

【調査結果のまとめ】

調査結果は、中部地域の中堅・中小部品サプライヤーとアジア新興国の有力企業との効率的・効果的な交流やマッチングに資するように、韓国および台湾について「航空機産業の現状と動向」、「分野別主要企業」、「企業ダイレクトリ」という項目別に取りまとめ、ガイドブック的なレポートとして編集・作成した。

②平成 22 年度仏国航空機関連企業動向調査委託事業

1) 事業の目的

本事業では、世界市場を米国と二分する欧州の中でも、とりわけ最も高い市場シェアを占める、仏国航空機関連事業の内、主要企業の現状及び動向を調査し、国内中小部品製造企業とのマッチングに繋げていくとともに、さらに航空宇宙産業フォーラム参画機関とともに当地域航空機関連企業の PR をを行い、関心企業の発掘や海外航空機関連団体等とのミーティングの開催などの今後の国際ビジネス交流のための基礎とすることを目的とする。

2) 調査委託

調査委託事業にあたり、委託業者を公募し入札・審査の結果、在日フランス商工会議所を委託業者に選定し事業を実施した。

・調査実施期間 平成 23 年 2 月 14 日～平成 23 年 3 月 18 日

3) 調査実施内容

仏国航空機関連事業の内、主要クラスターを形成しているパリ近辺及びトゥールーズ近辺の主要企業・政府機関を対象に、政府の取組み、企業戦略等の現状と動向を調査した。調査実施に当たっては、以下の企業・機関について、訪問形式によるヒヤリング調査を実施した。

訪問期間・企業

フランス（平成 23 年 2 月 28 日～3 月 2 日）
①TEOS (Mecachrome) 社
②ミディ・ピレネー経済開発局
③Latecoere 社
④ESPACE 社
⑤Daher Socata 社

4) 調査結果

今回の訪仏では、航空宇宙関連に携わる 4 社及び 1 機関を訪問し、それぞれ活動内容の紹介を受けた。今回面談した中で、メカクローム社・ESPACE 社・Daher Socata 社・ミディピレネー経済開発局に関しては、日本の航空宇宙企業との交流に意欲的であり、今後も定期的に交流を続け協力関係の可能性を探ることが重要である。

特に、ESPACE 社との面談では、中部地域の中小企業にとって興味深いビジネスモデルを示してくれることとなった。中小企業が海外の大手企業と取引を行う際にネックとなる、複数企業をとりまとめて品質管理・インターフェースを行う組織がないという問題を、ESPACE 社では複数サプライヤーをとりまとめる企業をおくことで解決している非常に興味深い例である。

今後エアショーやなどの機会に、メカクローム社・ESPACE 社・Daher Socata 社各社の工場を訪問することに関しては、どの企業も好意的であった。訪問・面談を重ねてさらに信頼関係を築き、ビジネスの可能性を探ることが望まれる。

4. まとめ

平成22年2月に策定された「中部地域航空宇宙関連産業集積活性化ビジョン」のもと愛知、岐阜、三重3県と各地域84市町村が連携して、中部地域の基幹産業である航空宇宙関連産業のさらなる集積と高度化を目指した事業を行ってきた。

このため地域連携マネージャーとして、航空宇宙産業に造詣の深い4人、産学官連携に広い実績を有する2人の計6人による中核推進グループを構築し、更に2人の調査員を配置して地域内にとどまることなく、国内外の航空宇宙関連ネットワークを構築し、シーズ発掘、研究開発、販路開拓事業等を行ってきた。現実にモノづくりを行っている中小企業、新規航空宇宙関連産業参入企業等には、専門家派遣制度のもとに技術あるいは業界事情の特殊性等の支援を行ってきた。

今後の航空宇宙関連産業には従来の航空機、宇宙関連機器、部品等のモノづくりの支援にとどまることなく、今後の事業拡大の可能性の大きいMRO産業創出の可能性、災害、測量等に期待される無人航空機の現実と期待、先進国と言われながら遅れているビジネス航空機の利用に関わる問題などを研究課題に取り上げて、専門委員を集めて議論してきた。これらの議論は我が国の今後の航空機産業市場の拡大につながるものとして期待されているものであるが、民間企業がすぐには参入できない危険性があり、系統的な調査と具体的な方策が望まれている。しかし、この問題はこれまで取り上げられたことがなく、短期間には結論を見いだせない内容のものであるため、少しずつではあるが、現実的な方策を提案できるように進めていきたい。

我が国の航空機産業は防衛機を中心に進展してきたが、防衛予算の減少と共に、民間機の占める比率がほぼ同等になり、民間機を中心とした生産に移行する遷移期にある。このため、コストを意識したモノづくりが強く求められるようになり、生産システムの大きな変革が進もうとしている。また、航空機産業規模が小さいため、国内での航空機部品市場の大幅な拡大は期待できないのが現実である。そのような状況において、他産業からの新規参入はかなり難しいことである。このため、国内市場だけを探し求めていては産業集積に限度が出てくる。そこで、海外に目を向けた活動が必要と考え、世界の航空機市場を席巻する米国ボーイング社のセミナー開催、委託調査事業による欧州航空産業市場の実態、成長著しい隣国韓国、台湾の航空宇宙産業調査、更には中小企業の世界エアショーへの直接参加支援などを実施してきた。特に、中小企業の販路拡大という観点からは、ファンボロエアショーでのビジネスマッチングにおいて2件の商談が成立し、中堅企業による海外でのビジネスが始まろうとしていることは特筆される。

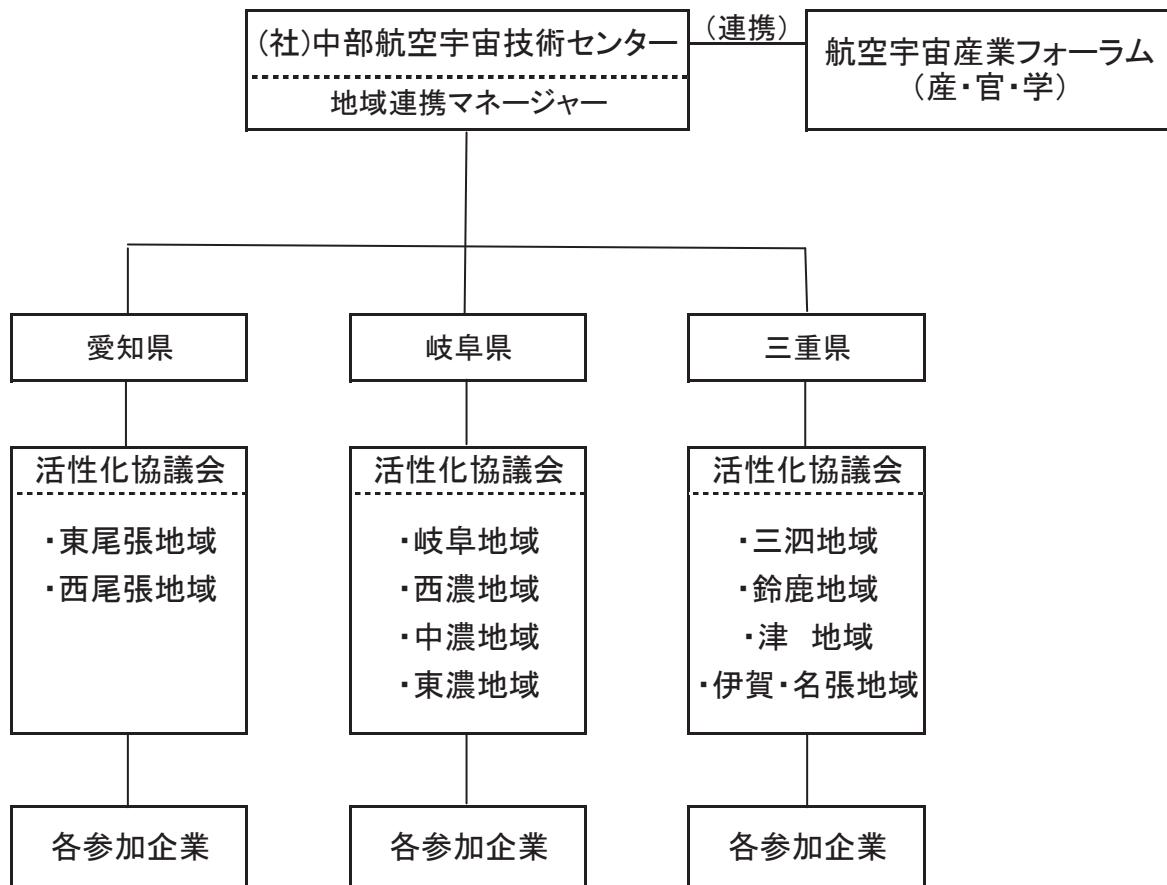
初年度事業としては、既に集積のある地域の活動であるため高度な取り組みから入ることが出来た。しかし、世界の航空宇宙産業クラスターからみると規模が小さく、更に進化した活動が必要であることを痛感した。世界のクラスターに匹敵するものへと成長させるべく、産官学の体制のもとに3県一体となったクラスター形成に向けてさらに掘り下げた活動を行っていく。

別紙

別紙 1	実施体制	P. 25
別紙 2	実施スケジュール	P. 26
別紙 3	専門家派遣制度の案内・派遣依頼書・専門家一覧	P. 27
別紙 4	技術シーズ発表会 開催案内	P. 32
別紙 5	技術シーズ発表会 アンケート集計	P. 33
別紙 6	航空宇宙産業フォーラム 開催案内	P. 34
別紙 7	航空機関連産業新規参入セミナー 開催案内	P. 35
別紙 8	航空宇宙シンポジウム 2010 開催案内	P. 36
別紙 9	航空機部品供給システム研究会 第6回定期講演会案内	P. 37
別紙 10	輸出管理セミナー 開催案内	P. 38
別紙 11	第2回航空機産業新規参入セミナー 開催案内	P. 39
別紙 12	第2回輸出管理セミナー 開催案内	P. 40
別紙 13	MRO 研究会・無人機研究会・BJ 研究会 委員・オブザーバリスト	P. 41

実施体制

実 施 体 制



実施スケジュール

事業名区分	平成22年								平成23年		
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
【全般】	交付▼26										▼31
・活動報告書作成											
①ネットワーク形成支援事業											
・地域連携マネージャー											
・調査員											
・関係者連絡会議											
△8 航空宇宙産業フォーラム推進会議「連絡会議」											
△18 航空宇宙産業フォーラム推進会議											
△6 航空宇宙産業フォーラム2010											
△25 全国航空機クラスター関係者会議											
△6 関係者会議											
・専門家派遣											
②研究開発支援事業											
・NCC打合せ(計3回)											
③販路拡大支援事業											
・海外交流促進事業											
専門家派遣											
・技術シーズ/シンポジウム等											
△18 中部大学フェア											
△5 しんきんビジネスフェア											
△5・6 リーディング産業展みえ											
△25 技術シーズ発表会											
△25～27 航空宇宙シンポジウム											
・セミナー/ビジネスマッチング等											
△2 航空機部品供給システム研究会											
△10 第1回輸出管理セミナー											
△16 三重県航空機産業新規参入セミナー											
△29 第2回輸出管理セミナー											
・MRO研究会(計3回)											
・無人機研究会(計4回)											
・BJ研究会(計3回)											
△14 #1											
△22 #1											
△4 #1											
△29 #2											
△17 #3											
△3 #2											
△20 #2											
△11 #4											
△4 #3											
【委託事業】											
新興国航空機関連産業動向調査委託事業											
△3 #1											
仏国航空機関連企業動向調査委託事業											
△2 #1											

専門家派遣制度のご案内

(社) 中部航空宇宙技術センター
(C-ASTEC)

平素は、当センターの事業運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当センターにおいては、平成22年度地域企業立地促進等事業補助金を活用した、中部地域航空宇宙関連産業集積活性化活動事業（広域ネットワーク事業）による、専門家派遣制度を立ち上げました。

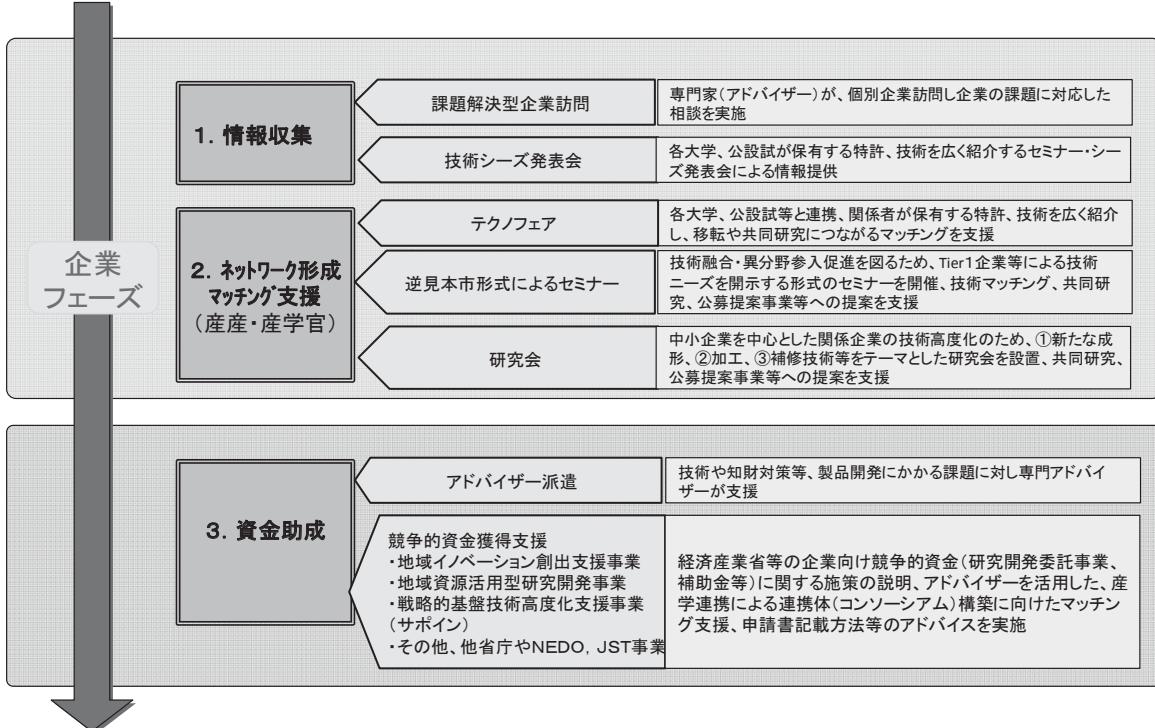
専門家派遣制度とは、企業が抱える個別課題に対応するため、要請に基づき専門家（アドバイザー：企業技術者OB等）を派遣する制度です。

また、各種イベントに対する展示・発表支援（ブラッシュアップ）、経済産業省をはじめとする各種の施策制度（地域イノベ、サポイン等）への応募支援（申請書記載方法等）、他業種への販路開拓・新規参入支援等、幅広い支援活動を展開していきます。

ご活用を希望される場合は、専門家派遣依頼書により、当センターに専門家の派遣をご依頼願います。

- ◆ 利用できる方：航空宇宙関連企業、新規参入企業
- ◆ 利用料金：無料
- ◆ 利用回数：原則3回（1案件につき）
 - * 専門家派遣第1回目にあたっては、原則地域連携マネージャー同行
- ◆ 依頼方法
 - ・C-ASTEC HPより直接依頼
 - ・C-ASTEC HPより派遣依頼書をダウンロード
⇒ FAXまたはメール（専用アドレス）より依頼

C-ASTEC 専門家派遣制度 ～研究会活動、個別企業相談等を展開し、技術高度化を支援～



【問合せ】

(社) 中部航空宇宙技術センター (C-ASTEC)

担当：技術企画部 中沢

TEL : 052-221-6681 FAX : 052-218-8528

E-mail : senmonka@c-astec.jp URL : <http://c-astec.jp>

専門家派遣依頼書

依頼日	平成 年 月 日 ()					
会社名	会社名 住所 〒					
依頼者	所属 氏名			TEL	FAX	E-mail
訪問希望 日時	第一希望 : 月 日 午前 / 午後 時 分 第二希望 : 月 日 午前 / 午後 時 分 第三希望 : 月 日 午前 / 午後 時 分 <small>(午前か午後に○をお付け下さい) ご希望日に添えない場合もございますので、複数の希望日時をご指定ください。</small>					
依頼内容	<u>件名 :</u> <small>(依頼内容詳細)</small>					
訪問希望 専門家名	<u>(専門家一覧よりお選びください。 複数あるいは希望なしの場合事務局にて選定します。)</u>					

貴社のカタログ、所在地の地図を同送してください。

地域連携マネージャー

No.	氏名	現職・元職	資格／専門分野	コメント
1	スミタ ジュンイチロウ 炭田 潤一郎	現 (株)航空システム研究 代表取締役 元 西日本工業大学 工学部機械システム工学科 教授 三菱重工業(株)航空機部担当部長	資格:工学博士、技術士(航空・宇宙部門)、自家用飛行機操縦士、等 専門分野:航空機開発計画・管理、全機空力設計、システム全般設計、フライト・コントロール・システム設計	日本の航空宇宙産業の先進国化を目指して、航空機の開発製造、維持管理全般についての助言や支援を行います。また落ちない飛行機や各種無人機等の新規プロジェクト計画、推進を行います。
2	タジマ テルヒサ 田島 咲久	現 田島技術士事務所 代表 中日本航空専門学校 非常勤講師 元 双日エアロスペース(株) 顧問 川崎重工・USA(株) 上級副社長	技術士(航空・宇宙部門) 航空機構造の設計と強度解析、開発計画・管理	航空機構造に関して部品から組立まで、実機設計の知識と経験に基づいて助言支援 海外駐在経験に基づいて海外市場開拓などを助言支援
3	フルサワ マサト 古澤 正人	元 カワサキヘリコプタシステム(株) 常務 川崎重工業(株) ヘリコプター設計部長	ヘリコプターおよびその要素技術の研究開発、設計、試験、型式証明、および開発マネージメント	航空機部品・装備品の技術開発の手順、手法、評価方法、規則・規程などについて支援できます。
4	エグチ マサオミ 江口 正臣	現 江口技術士事務所 所長 東レ(株) 医療機材製造部・技術部 特別顧問	技術士(化学部門)、環境省環境カウンセラー(事業者部門)、公害防止管理者(大気・水質1種)、危険物取扱者(甲種)／重合プロセス開発、生産技術、品質管理、生産管理(IE)、樹脂の粉体混合・成形、環境技術、人工臍臍の開発・製造技術	素材、部品、最終製品の各企業に勤務し培った、川上から川下までの研究技術開発・商品開発・品質管理・工場改善(IE)、環境保全、廃棄物処理・PRTR処理の経験を活かし、中小企業の抱える問題解決のお役に立てればと考えています。
5	イシハラ タンヤ 石原 達也	現 ビジネス航空ジャーナリスト 元 (株)中部経済新聞社 記者	ビジネス航空、ビジネスジェット用空港、およびその周辺産業	都市づくり・地域づくりの観点から、航空機を"使う"側の産業をメインに取材・情報発信・提言をおこなっています。
6	クワハラ ヨシカ 桑原 好孝	元 東海ものづくり創生協議会 クラスター・マネージャー 工業技術院名古屋工業技術研究所 構造プロセス部長	工学博士／ものづくり技術	"技術立国日本"に赤信号が点滅しています。生産拠点の海外移転に伴う"ものづくり技術"の流失……、我が国では今後も基礎技術の更なる高度化と先端技術の開発と新たな産業の創出が続きます。少しでもお役に立てることを願っています。

専門家

No.	氏名	現職・元職	資格／専門分野	コメント
1	シンジョウ ドショウ 新庄 俊郎	現 (社)日本航空宇宙工業会 国際航空宇宙展事務局 スペシャルプロデューサー 元 (株)博報堂 事業プロデュース部ディレクター	①イベント催事(展示・スポーツ文化あらゆるジャンル)の企画・施工・運営)プロデュース ②地球環境問題・植物軸の研究／小中学生への植物を軸とした環境教育 ③地域観光物産活性化に関する実務方策	長年、広告代理店で幅広い分野を実務担当していましたので、主として3つのジャンルに関しての対応が可能です。各ジャンルで実例を挙げながらソリューション(=問題解決)のサポートが可能です。
2	オオタ タカシ 太田 孝士	現 中日本航空専門学校 非常勤講師 元 川崎重工業(株) (株)天龍工業 航空機カンパニー 顧問	航空機製品複合材料成形加工(生産技術)及びこの分野に於ける受注活動・認証取得/生産体制構築業務	航空宇宙事業への参入にはそれなりのハードル、リスクが存在します。とりわけ特殊プロセスのひとつである複合材製品の製造参入はハードルが高いのですが、そのハードルの実状とクリヤーにつき、助言・支援致します。
3	オクダ ユウゾウ 奥田 雄三	現 奥田技術士事務所 所長 元 三菱重工業(株) (株)中部プラントサービス	資格:技術士(機械部門、経営工学部門、総合技術管理部門) 専門分野:生産体質づくり・収益改善・事業戦略・技術開発	中小企業の御相談にお応えいたします。
4	キン 岸 元	現 三菱航空機(株) 重量管理室 副室長 元 川崎重工業(株) 宇宙・民間航空機設計部長	航空機構造設計、解析、試験、開発プロジェクト管理など	防衛、民間航空機の、特に開発プロジェクトや機体構造についていろいろな経験有り。米国駐在が10年以上あり、特にボーイングの仕事のやり方に精通。
5	スズキ テルオ 鈴木 晃夫	現 日本文理大学工学部 非常勤講師 元 三菱重工(株) MHIエアロスペースシステムズ(株)	航空機の電子システム設計並びに電装設計	電装設計分野の技術指導を通して、業界の発展に寄与できればと考えます。 航空整備士(電子装備)並びに航空無線通信士の資格取得のための支援を致します。

専門家

No.	氏名	現職・元職	資格／専門分野	コメント
6	タカハシ アキオ 高橋 明男	現 高橋技術士事務所 所長 元 三菱重工業(株) 名古屋航空機製作所 (株)神戸工業試験場 名古屋技術室長 愛知工業大学情報電子専門学校 非常勤講師(CAD/CAM学科)	技術士(金属部門) ①航空宇宙用材料・部品に対する適正工法・工程開発、②塑性加工等金属加工法に関する材料・プロセスコントロール技術等をもとに、航空宇宙産業のさらなる発展(新規参入・事業拡大支援等)に努めています。	航空機メーク研究部門における新加工技術開発の実務経験、ならびにその実用化におけるプロセスコントロール技術等をもとに、航空宇宙産業のさらなる発展(新規参入・事業拡大支援等)に努めています。
7	ナカヤマ ヒロトシ 中山 裕敏	現 中日本航空専門学校 非常勤講師 大同大学 非常勤講師 元 川崎重工業(株) (株)超高温材料研究所 副所長 兼 技術部長	1. 航空宇宙用材料技術全般に関する材料、プロセス技術の開発、選定および品質評価 2. 耐熱複合材料のプロセス開発、評価技術	航空宇宙用材料に関して技術の立場から設計、生産技術、品質保証部門への指導、調整、支援に長年携わる。また耐熱複合材料に関して論文発表やNASAでの講演など多数実績あり。これらの経験に基づいて関連産業分野での事業化支援を行いたい。
8	ハタナカ ユカ 畠中 豊	現 畠中環境カウンセラー事務所 代表 元 川崎重工業(株) 航空機製造部門 榎本ビーエー(株) 新製品開発室長	資格:エコアクション21審査人、省エネルギー普及指導員、環境カウンセラーなど 専門分野:機械加工、造船、航空機の生産技術、エコマニュファクチャリング、環境経営、省エネルギーなど	「環境保全を織り込んだ製造技術」を広める事を残りの人生の天職と定め、技術屋から環境屋に脱皮しました。
9	ハットリ タツヒコ 服部 達彦	元 東亞合成化学工業(株) 名古屋総合研究所新製品開発研究所長 中部液酸(株) 常務取締役工場長	資格:危険物(甲種)、公害防止管理者(水質、大気)、高圧ガス(甲種化学)、エネルギー管理士(熱)、衛生管理者など 専門分野:化学(有機合成、触媒)、化学工学、高圧ガス	CFRPの穿孔装置開発の関係で、サボイン申請の支援をした経験があり、この関連、あるいは化学的な問題で、航空宇宙関連産業へのお手伝いが出来ればと考えている。
10	ハマイ ショウヘイ 濱井 升平	現 濱井技術士事務所 所長 元 三菱重工業(株)	技術士(金属部門)、工学博士、eco検定、第一種放射線取扱主任、金属材料の最適選定、材料の腐食・防食処理、耐熱・耐歴耗処理、各種熱処理技術、工程管理、評価法(試験、検査)、NDI技術対応	航空機用部品・材料の供給に要するNadcap受審のための技術支援の実績有り。
11	ハヤシ サトシ 林 哲史	現 (株)中央エンジニアリング 取締役 元 三菱重工業(株) 航空機工場検査員国家試験委員	ロケットエンジン開発(設計、試験)、ヘリコプターに駆動装置開発、ジェットエンジン組立、航空宇宙機器製造管理	ロケットエンジン、ジェットエンジン、ヘリコプターの駆動装置等について、実務経験があります。対象は「航空から宇宙まで」、職種としては「設計・試験から製造」という広い範囲をカバーしています。
12	ヒズギ ヒデキ 一杉 秀樹	元 日本航空 国際旅客本部本部長付部長 カンタス航空会社 日本支社長	国際旅客輸送に拘わる、事業計画、販売計画、提携協力関係に長年従事。取り分けアジア・オセアニアの担当が長い。また部門横断的な航空会社運営全般にわたる視野を有する	航空会社の経営・運営全般について幅広い知識を有する
13	ヤマウチ マサヒコ 山内 昌彦	現 (社)中部産業連盟 ISO事業部 上席主任コンサルタント 大阪大学工学部 非常勤講師 元 川崎重工業(株) 生産技術部	資格:技術士(経営工学)、中小企業診断士、ISO品質／環境主任審査員 専門分野:NC機械加工部品を主体とした部品加工の生産技術、生産システム、生産システムの改善	生産技術部門で主にNC機械加工の工程設計やNCプログラムを担当してきました。またQMS主任審査員資格を保有していますので、JISQ9100の取得支援や部品加工の生産技術に関する支援は可能です。
14	ヤマダ マサトシ 山田 正節	現 (社)中部航空宇宙技術センター 産学官連携コーディネーター 元 三菱重工業(株) 名古屋誘導推進システム製作所 (株)タマディック 電子情報システム部 部長	ロケットエンジンの開発、計測/制御装置・試験装置、センサーの開発・運用	これまでの経験が、新技術に生かされればと思います。
15	ヤマナカ タケシ 山中 翔	現 (有)新和興 品質保証部 顧問 元 川崎重工業(株) 品質保証部 部長 メイラ(株) 品質保証室	品質保証を専門分野とし、特に品質マネジメントシステム認証取得(航空機、自動車、医療分野)の経験を有す	専門分野は、"品質保証"ということになりますが、設計・開発の経験も有しており、品質マネジメントシステムの構築には、何らかのお役に立てるものと思っております。
16	ヤマモト アキノブ 山本 顯信	現 愛知工業大学情報電子専門学校 非常勤講師 元 三菱重工業(株) 名古屋誘導推進システム製作所 東航エンジニアリング(株)	・経営計画(3つの中期経営計画の策定と推進) ・プロジェクト マネージメント(JAPAN PATRIOT PROJECTでPROJECT ENGINEER) ・生産技術(IE ENGINEER) 工場計画/設備計画(5つの工場計画や設備計画の策定と実行)	IE ENGINEERとして約40年間、航空宇宙関係の物作りに携わってきた経験を生かす事が出来れば、幸いです。
17	アベ シュンイチロウ 阿部 駿一郎	現 阿部技術士事務所 所長 元 三菱重工業(株) 名古屋誘導推進システム製作所	資格:工学士(航空原動機)/技術士(航空・宇宙部門及び総合技術監理部門) 専門分野:①航空用大型/小型ジェットエンジンの開発設計・製造・耐久性実証試験実施②航空用/ヘリ用ギヤ/ギヤシステムの開発設計・製造・耐久性実証試験実施	実績経験分野 ①エンジン要素技術とシステム化統合技術 ②海外航空エンジンメーカー(PWA社、GE社、R/R社、SNECMAS社、SIKORSKY社、ハネウェル社等)との技術交渉(設計・製造等のライセンス導入/設計評価、試験装置借用・試験委託等)

専門家

No.	氏名	現職・元職	資格／専門分野	コメント
18	カナマル マサアキ 金丸 允昭	現 アイコクアルファ(株) 特別顧問 元 三菱重工業(株) 東京工学大学 非常勤講師	・航空機・機械部品の加工 ・CAD/CAM	日本の航空宇宙産業の規模は、米・欧いすれと比較しても1/10以下です。この規模を国家的レベルで大きくすること、そしてのづくりでは皆の知恵を寄せ集めることが必要です。
19	サトウ アキラ 佐藤 晃	現 中菱エンジニアリング(株) 特別顧問 元 三菱重工業(株) 名古屋航空機製作所	技術士(航空・宇宙)／回転翼機に関する技術	数年前にC-ASTECの専門家(アドバイザー)として中小企業数十社の相談に乗った経験があります。今回もこの経験を活かせばよいと思っています。
20	シオザワ ヒロ ジロウ 塩澤 博次郎	現 東京都市大学 工学部 非常勤講師 元 三菱重工業(株) 名古屋航空宇宙システム製作所 中菱エンジニアリング(株) (株)ロケットシステム (株)コスモテック	宇宙ロケットの設計、製造、工場内点検、射場発射整備を継続的に実施、指揮してきた。	一発物の品質保証で長らく苦しんできた。危機管理がポイントと理解している。
21	マキシマ マモル 巻島 守	現 (有)名古屋航空技術 代表 元 三菱重工(株) 名古屋航空機製作所 中菱エンジニアリング(株)	技術士(航空・宇宙部門)／動解析、制御解析、構造強度計算	複雑な運動・挙動解析、サーボモータや油圧による位置制御、荷重制御解析、構造強度計算の相談・指導・解析実務実施
22	ヤナギヤ マサヒ 柳谷 正史	現 (株)中央エンジニアリング 名古屋事業本部 技術顧問 元 三菱重工業(株) 名古屋航空宇宙システム製作所	昭和41年から現在まで、航空機(固定翼)の荷重解析、構造設計、構造強度解析の業務に従事した。	航空機(固定翼)の荷重設定から構造強度証明まで一連の経験を持っています。
23	イマムラ ツバキ 今村 次男	現 (独)宇宙航空開発研究機構(JAXA) 客員 元 三菱重工業(株) 名古屋航空宇宙システム製作所 中菱エンジニアリング(株) 柏菱エンジニアリング(株) 名古屋大学・愛知工業大学 非常勤講師	資格:工学士 専門分野:航空機・ロケットに使用される金属材料の材料技術、利用技術、部品製造技術	航空機・ロケットに金属材料を使用するに当たっての材料、プロセス(工法)、落とし穴、対応策などをご指導いたします。
24	ヒコサカ タケオ 彦坂 武夫	現 愛知県産業技術研究所 研究支援専門員 元 愛知県産業技術研究所 工業技術部長	資格:工学博士 専門分野:金属関連の新技術、新製品開発、その他金属加工に関する材料プロセス技術、材料試験(機械的性質、組織)及び鋳造に関する加工分野(溶解、鋳型)の指導並びに産学官連携コーディネートなど。	長年に亘って鋳鉄の金型鋳造、複合材料技術、半凝固技術の研究開発、提案公募型研究開発事業への支援を行ってきました。ものづくりにおける新技術、新製品開発への手伝いができると思います。
25	フカガワ ヒトシ 深川 仁	現 国立大学法人岐阜大学 産官学融合本部 特任教授 元 川崎重工業(株) 今井航空機器工業(株) 執行役員 品質保証部長	資格:技術士(機械・総合技術監理)、労働安全コンサルタント 専門分野:航空機製造全般の生産技術、研究開発特許化支援、CFRP等の材料加工法開発、人材育成教育プログラム作成、5S・なぜなぜ分析・TPM活動の社内講師など。	機械加工や工具開発を中心に、幅広い分野での研究開発を手掛けてきました。各種の社員教育や指導、研究会の立ち上げ等の得意分野です。
26	ヤマダ トシオ 山田 敏夫	元 三菱重工業(株) 名古屋航空宇宙システム製作所 中菱エンジニアリング(株) サンテクノ(株)	航空機(戦闘機及び中小型民間機)電子・電気・計器システムの開発設計、詳細設計、及び開発試験推進、並びに地上試験装置の開発	航空機等の開発設計、開発試験推進及び装備品の仕様設定から国内・国外メーカーとの技術調整等迄の豊富な経験に基づき、システムの構築手法、搭載装備品及び試験装置の開発の進め方、各フェーズでの技術ポイント等について、助言可能。
27	モンマ キヨヒデ 門間 清秀	現 (株)ティ・エフ・マネジメント 代表取締役 元 三菱重工業(株) 名古屋誘導推進システム製作所 品質保証部長	・航空機、航空エンジン、ロケットエンジン等、航空宇宙製品の品質保証 ・航空・宇宙・防衛分野の組織の品質マネジメントシステム	航空宇宙分野で培った開発及び製造における品質保証の管理技術を、多くの企業様に役立てられれば幸いです。
28	ミワ 三輪 サブロウ 三輪 三郎	元 川崎重工業(株) 宇宙設計部 参事	航空機、①動力系統、②燃料系統、③防除氷系統、及び④空調系統の設計	40余年の航空機等、装備設計経験が、なにがしかのお役に立てば望外の幸いです。

技術シーズ発表会のご案内

平素は、当センターの事業運営に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、当センターにおいては、平成22年度地域企業立地促進等事業補助金を活用した、中部地域航空宇宙関連産業集積活性化活動事業（広域ネットワーク事業）による大学・研究機関からの技術シーズ発表会を「航空宇宙シンポジウム2010」の開催に合わせて、下記要領にて開催致します。

また同時に相談コーナーを設け、この大学等の技術シーズを基に新事業をお考えの企業とのマッチングを個別に行って、次年度以降におけるサポイン等の公的補助金事業への提案に向けて準備作業等の支援をさせていただくことを計画しておりますので、ご活用ください。

参加希望の方は、下記参加申込書にご記入の上、10月29日（金）までに事務局までお申込みください。

◆日 時：平成22年11月25日（木）13:25～16:50

◆場 所：名古屋市国際展示場（ポートメッセなごや）交流センター3階
第4会議室（講演） 第3会議室（相談コーナー）

プログラム

時 間	内 容	相談希望
13:25～13:30	開会挨拶	—
13:30～14:15	基調講演『航空宇宙産業へのレーザー技術の応用』 株式会社 最新レーザ技術研究センター 代表取締役 脇名 宗春 氏	
14:15～14:50	『航空機部品の切削加工時に発生しやすいびびり振動とその抑制技術』 国立大学法人名古屋大学 大学院工学研究科 機械理工学専攻 教授 社本 英二 氏	
14:50～15:00	休 憩	—
15:00～15:35	『スペースエイジ材料における機械加工』 学校法人大同大学 工学部機械工学科 教授／創造創作センター長 井上 孝司 氏	
15:35～16:10	『電子PVD法によるジェットエンジン用の熱遮蔽コーティング』 財団法人 ファインセラミックスセンター (JFCC) 材料技術研究所 所長代理 松原 秀彰 氏	
16:10～16:45	『航空機部品適用を目指したVaRTMによるCFRP成形技術』 独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 研究開発本部 主幹研究員 岩堀 豊 氏	
16:45～16:50	閉会挨拶	—

講師の方との個別相談をご希望の方は、上記“相談希望”欄へ○をつけてください。

◆参加申し込み方法（定員：100名）

FAXの場合 下記参加申込書にご記入の上、FAX番号：052-218-8528までお送りください。

メールの場合 件名に『技術シーズ発表会』とご記入の上、下記参加申込書の内容を本文に記載し、
E-mail：senmonka@c-astec.jpまでお送りください。

※お申込み多数の場合、定員（100名）になり次第、締め切らせていただきます。

◆お問い合わせ先

事務局：社団法人 中部航空宇宙技術センター TEL：052-221-6681 担当：中沢・江口・桑原

技術シーズ発表会 参加申込書

申込期限 10月29日(金)

会社名（機関名）：

所在地：〒

参加者氏名	所属部署・役職	TEL	FAX	E-mail

中部地域航空宇宙関連産業集積活性化活動事業
技術シーズ発表会のアンケート集計(2010.11.25(木)開催)
場所:名古屋市国際展示場(ポートメッセなごや)交流センター3階
講演:第4会議室、相談コーナー:第3会議室

発表テーマに対する感想		テーマ1		テーマ2		テーマ3		テーマ4		テーマ5	
件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%
A	7	70.0%	A	11	45.8%	A	11	45.8%	A	5	23.8%
B	3	30.0%	B	12	50.0%	B	12	50.0%	B	13	61.9%
C	0	0.0%	C	1	4.2%	C	1	4.2%	C	3	14.3%
D	0	0.0%	D	0	0.0%	D	0	0.0%	D	0	0.0%
合計	10	100.0%	合計	24	100.0%	合計	24	100.0%	合計	21	100.0%

A:大変参考になった

B:参考になった

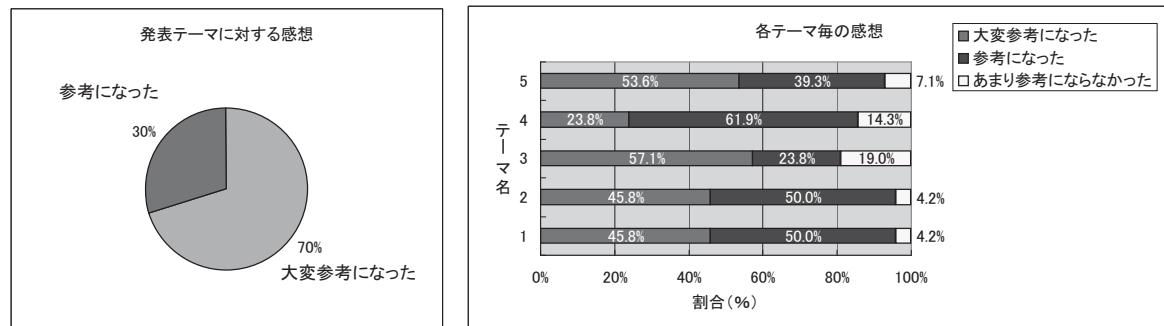
C:あまり参考にならなかった

D:参考にならなかった

開催通知の情報源		発表テーマ数		発表時間		会場および運営方法		その他	
	件数	%		件数	%		件数	%	件数
HP	8	28.6%	丁度良い	19	73.1%	満足	8	30.8%	有難うございました
ちらし	8	28.6%	深く絞る	4	15.4%	概ね満足	10	38.5%	質問の時間があっても良いのでは
官公庁紹介	5	17.9%	広いシーズ説明	3	11.5%	普通	6	23.1%	直接聴講でき勉強になった
メルマガ	5	17.9%	合計	26	100.0%	やや不満	1	3.8%	勉強になった
社内案内	1	3.6%				不満	1	3.8%	申し込み済み確認方法
出展したため	1	3.6%							部屋が暑かったです
合計	28	100.0%							メンテナンス分野のテーマ要望

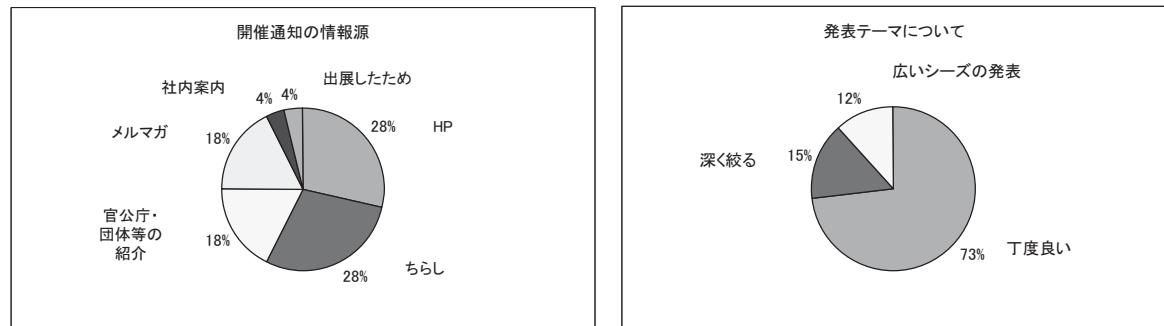
1. 発表テーマに対する感想をお聞かせください。
(全般)

1. 発表テーマに対する感想をお聞かせください。
(テーマ別)



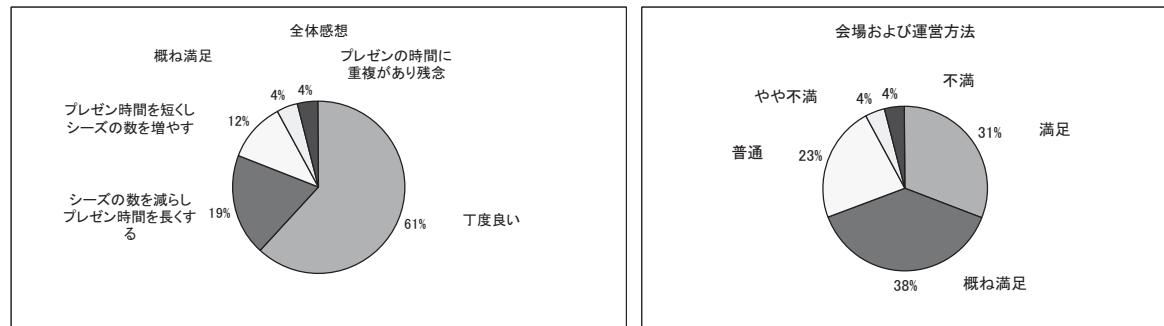
2. 今日の催しを何でお知りになりましたか?

3. 全体の感想をそれぞれお聞かせください。
(発表テーマについて)



3. 全体の感想をそれぞれお聞かせください。
(発表時間について)

4. 会場および運営方法は、いかがでしたか?





経済産業省 平成 22 年度地域企業立地促進等事業費補助金
中部地域航空宇宙関連産業集積活性化活動事業

「航空宇宙産業フォーラム 2010」開催案内

航空宇宙産業フォーラム、在日米国商工会議所中部支部、グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会は、「航空宇宙産業フォーラム 2010」を開催いたします。

今回、米国ボーイング社の民間航空機部門マーケティング担当副社長ランディ テインセス氏より「ボーイング民間航空機部門の最新航空市場」について、ボーイング・ジャパン社長マイケル デントン氏より「Boeing 787 Dreamliner, Made with Japan」について講演いただきます。また、在日アメリカ商工会議所航空宇宙防衛産業小委員会-中部委員長のマイク・ライト氏より、H22 年6月に発足されました「在日アメリカ商工会議所航空宇宙防衛産業小委員会-中部」について概要説明及び活動紹介していただきます。

当イベントは、H22 年 6 月 15 日に開催した在日アメリカ商工会議所航空宇宙防衛産業小委員会-中部との航空宇宙ネットワーキングの第2弾と位置づけし、セミナー後はグレーターナゴヤ地域において中堅・中小企業との情報交換・ネットワークづくり、マーケティングを前提とした交流会を行い、地域航空宇宙産業の振興を図ります。交流会にはボーイング・ジャパン社長マイケル デントン氏も参加されます。

講演会(同時通訳)

- ◆日時:平成 22 年 10 月 6 日(水) 13:30~16:30
- ◆場所:名古屋マリオットアソシアホテル 16F 『アゼリア』 (名古屋市中村区名駅一丁目 1 番 4 号)
- ◆主催:航空宇宙産業フォーラム (JAIF) / 在日米国商工会議所中部支部 (ACCJ Chubu) / グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ協議会 (GNIC)
- ◆定員:200 名 (お申込多数の場合は、定員になり次第、締め切らせていただきます。)
- ◆申込方法:添付の申込書に記載の上、seminar@c-astec.jp までメール/FAX、又は C-ASTEC HP より直接お申込み
- ◆申込締切日:平成 22 年 9 月 30 日(木)

プログラム

13:30~13:35 開会あいさつ

航空宇宙産業フォーラム座長、(社)中部航空宇宙技術センター会長 川口 文夫

13:35~14:45 『ボーイング民間航空機部門の最新航空市場予測』

ボーイング副社長 ランディ テインセス 氏

14:45~14:55 休憩(10 分)

14:55~16:00 『Boeing 787 Dreamliner, Made with Japan』

ボーイング・ジャパン社長 マイケル デントン 氏

16:00~16:30 『在日アメリカ商工会議所航空宇宙防衛産業小委員会-中部概要(仮)』

委員長 マイク・ライト 氏

16:45~ 交流会(下記参照)

交流会

- ◆日時:平成 22 年 10 月 6 日(水) 16:45~18:45
- ◆場所:ビストロ&ビアカフェ カンカル(Cancalé) <http://www.cancalé.jp/>
(名古屋市中村区名駅 1-1-4 JR セントラルタワーズ 12F TEL:052-562-5570)
- ◆定員:80名(お申込多数の場合は、定員になり次第、締め切らせていただきます。)
- ◆参加費:4,000 円(一人あたり)

航空機関連産業新規参入セミナー

■趣旨

航空機関連産業は、今後、世界的に市場の成長が見込まれ、我が国の基幹産業の一つとして期待されており、ボーイング787型機の大量受注やMRJの製造開始など今後の生産の拡大が予想され、航空機関連産業への新規参入の可能性が高まっています。

こうした中、本県においても、中部地域の基幹産業の1つである航空機産業の更なる集積や振興を図るため、新規参入を支援する取り組みを実施していくこととします。

そこで、航空宇宙産業の概要を知っていただき、今後の事業展開の参考にしていただくため、本セミナーを開催します。

■日時：平成22年11月5日（金）14：00～15：00

■場所：四日市ドーム 第1セミナー室（四日市市大字羽津甲5169番地）

※「リーディング産業展みえ2010」会場。近鉄・JR四日市各駅から送迎用無料シャトルバスあり。

■対象：航空機産業に興味を持つ企業、既参入企業

■定員：90名（先着順）



■参加料：無料

■セミナー

- ・テーマ：「航空宇宙産業の現状と見通しと参入環境について」

- ・講師：株式会社 航空システム研究

代表取締役 炭田 潤一郎 氏

■申込方法

【ホームページ】

下記ホームページから、必要事項をご入力の上、お申し込みください。

<http://www.pref.mie.jp/SSHUSEKI/HP/leading/seminar.htm>

【メール・FAX】

（裏面）「航空機関連産業新規参入セミナー参加申込書」に必要事項をご記入の上、

下記アドレス又は宛先へお送りください。

■その他

「リーディング産業展みえ2010」開催期間中、同会場(社)中部航空宇宙技術センター(研究・支援・公的機関ゾーン：F-9)において、航空機関連産業に係る企業相談会を開催しています。

<問い合わせ先>

三重県農水商工部産業集積室新技術創出グループ

TEL : 059-224-2393

FAX : 059-224-2078

e-mail : sshuseki@pref.mie.jp

Aerospace symposium 2010

航空宇宙シンポジウム2010

航空機部品300万点への挑戦

開催場所

**名古屋国際展示場
「ポートメッセなごや」**

- 展示会／第3展示館内
- 講演会／交流センター3階、会議ホール
- 商・相談会／交流センター3階、第3会議室
- 技術シーズ発表会／交流センター3階、第4会議室

開催日時

平成22年11月25日(木)・26日(金) 10:00～17:00

平成22年11月27日(土) 10:00～16:00

※27日(土)パブリックイベント開催(交流センター3階会議ホール)

入場無料 企業展示会・基調・一般講演会については、当日入場可能です。事前申込も受付けております。
(満席の場合は、入場制限させて頂きます。)
※11月27日(土)パブリックイベントに関しましては、事前申込が必要です。(限定50組)
※講演会に関しましては、事前申込が必要です。(10月29日締切)

主催

航空宇宙シンポジウム実行委員会

構成団体／愛知県、名古屋市、(社)中部航空宇宙技術センター
(財)あいち産業振興機構、(財)名古屋産業振興公社

航空宇宙産業フォーラム

同時開催

**日刊工業新聞社主催
『第2回 航空宇宙産業技術展』**

名古屋国際展示場「ポートメッセなごや」

2010/11/25^T-27^{SAT}

<http://www.c-astec.jp/>

E-mail : sympo@c-astec.jp

共 催

名古屋商工会議所、(社)中部経済連合会

後 援

文部科学省、経済産業省、(独)宇宙航空研究開発機構(JAXA)、(社)日本航空宇宙工業会、愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、岐阜県教育委員会、
国立大学法人名古屋大学、国立大学法人名古屋工業大学、NPO法人 子ども・宇宙・未来の会(KU-MA)、三重県教育委員会(申請中)

航空機部品供給システム研究会 第6回 定例講演会

航空機構造組立技術と経営サイドから見た資材管理 ～部品点数 300万点の航空機製造～

開催のご案内

航空機は年々複雑化、精密化しており、現在の航空機1機の総部品点数は300万点に及ぶと言われています。これらの膨大な部品を正確かつ精密に組み立てることは、安全性が最優先される航空機製造にとって非常に重要な技術です。

今回は、三菱重工業（株）の中村氏に航空機の構造組立技術についてご講演いただくとともに、元コンチネンタルエアーライン上級副社長の鶴田氏にエアーラインの経営サイドから見た資材調達・管理についてご講演いただきますので、是非ご参加ください。

日 時：平成22年6月2日（水） 13:30～16:30

場 所：中電ホール

名古屋市東区東新町1

定 員：400名（先着順）

参加費：無 料

主 催：愛知県、（社）中部航空宇宙技術センター、航空宇宙産業フォーラム

申込方法：5月31日（月）までに、下記の事項をメールでご連絡下さい。（できるだけメールでお願いします。FAXは裏面をご利用下さい。）

①企業名、②所属、③氏名、④電話番号、⑤メール

定員に達した場合は、下記のホームページでご案内します。

<http://www.pref.aichi.jp/0000031804.html>

申込先：ikusei@pref.aichi.lg.jp

プログラム

13:30～	開 会	
講演 1 13:40～14:40	「航空機構造組立の現状と課題」	三菱重工業株式会社 名古屋航空宇宙システム製作所 生産性改善グループ 主席チーム統括 中村 好孝 氏
14:40～14:50	休 憩	
講演 2 14:50～16:20	「資材管理」が経営を変える（仮題）	コンチネンタルエアーライン 元上級副社長 鶴田 国昭 氏
～16:30	閉 会	

(社)中部航空宇宙技術センター

平成 23 年 1 月 14 日

中部地域航空宇宙関連産業集積活性化活動事業（広域ネットワーク事業）

海外航空宇宙機企業への販路拡大を目指す中小企業の皆様へ

“輸出管理セミナー”開催のご案内

本セミナーは、平成 22 年度地域企業立地促進等事業補助金を活用した、「中部地域航空宇宙関連産業集積活性化活動事業（広域ネットワーク事業）」及び名古屋市が実施している「航空宇宙産業地域ブランド発信事業」による海外エアショウ出展支援・販路拡大支援事業の一環として企画致しました。

この度の“輸出管理セミナー”は、海外取引をする上で非常に重要な点となる、輸出管理の基本をテーマとしております。我が国では、航空・宇宙機の製品（部品）・技術（システム）が海外で兵器の開発など軍事用途に用いられることがないよう違法輸出（外国為替及び外国貿易法〔外為法〕の規制対象である機微な貨物の輸出、技術提供は、経済産業大臣の許可が必要）を未然防止するため、企業の社内管理事項を定めた「輸出者等遵守基準（平成 21 年法改正）」が、平成 22 年 4 月から実施されており、航空・宇宙関連の輸出をお考えの企業様には、海外貿易へのご理解をより深めていただく良い機会と存じます。

海外への販路拡大をご計画されている企業様には、この機会に是非ご参加下さいようご案内申し上げます。

*募集要項につきましては、下記の詳細をご覧頂きお申し込み下さい。

- **日時** 平成 23 年 2 月 10 日（木）午後 3 時 30 分～午後 5 時 30 分
- **場所** 名古屋商工会議所 3 階 第 5 会議室 所在地 名古屋市中区栄 2-10-19
*地下鉄東山線 伏見駅下車 5 番出口南へ徒歩 5 分（3 ブロック左折・名古屋市科学館目印にお越し下さい。）
- **講師** （財）安全保障貿易情報センター内 中小企業輸出管理支援センター
輸出管理アドバイザー 跡部 正明 氏 他 1 名
- **内容**
 - 1 輸出管理の基本
 - (1) 輸出管理とは (2) 輸出者等遵守基準
 - (3) 該非判定の方法 (4) 輸出許可申請
 - 2 質疑応答（セミナー内容についての質疑応答）
- **対象** 海外航空宇宙機企業との取引（販路拡大）を計画されている企業・団体
- **定員** 140 名
- *申込者多数の場合、一社複数申込みに関しては、制限させて頂きますのでご了承下さい。
- **その他** 別途個別相談申し込みも受付させて頂きます。
(当日の相談は、時間の都合上実施出来ません。後日連絡し対応致します。)
(申し込み用紙に相談内容をご記入下さい。)

問い合わせ先 (社) 中部航空宇宙技術センター

担当 大海（おおがい）・角倉（すみくら）

TEL 052-221-6681 FAX 052-218-8528

URL <http://c-astec.jp>

第2回航空機産業新規参入セミナー

■趣旨

航空機関連産業は、今後、世界的に市場の成長が見込まれます。また、我が国の基幹産業の一つとしても期待されており、ボーイング787型機の大量受注やMRJの製造開始など今後の生産の拡大が予想されることから、航空機関連産業への新規参入の可能性が高まっています。

こうした中、本県においても、中部地域の基幹産業の一つである航空機関連産業の更なる集積や振興を図るため、新規参入を支援する取り組みを実施していくこととしています。

そこで、航空機関連産業の概要を知っていただき、今後の事業展開の参考にしていただくため、本セミナーを開催します。

■日時

平成23年3月16日（水）13時30分～16時30分

■会場

高度部材イノベーションセンターPRホール
(四日市市塩浜町1-30)

■定員

60名（参加無料）

■プログラム

時 間	内 容	講 師
13:30～13:40	挨 捶	
13:40～15:20	講演① 「航空機機体の技術と構造」 (仮題)	(社)中部航空宇宙技術センター 地域連携マネージャー 古澤 正人 氏
15:20～15:30	《 休 憩 》	
15:30～16:30	講演② 「航空エンジンの技術と構造」 (仮題)	阿部技術士事務所 所長 阿部 駿一郎 氏

■主催・後援

主催：三重県、(社)中部航空宇宙技術センター
後援：(財)三重県産業支援センター（予定）

■お問い合わせ先

三重県農水商工部産業集積室新技術創出グループ
TEL：059-224-2393
FAX：059-224-2078
e-mail：sshuseki@pref.mie.jp



(社) 中部航空宇宙技術センター

中部地域航空宇宙関連産業集積活性化活動事業（広域ネットワーク事業：中部経済産業局）

航空宇宙産業地域ブランド発信事業（名古屋市）

海外航空宇宙機企業への販路拡大を目指す中小企業の皆様へ

第2回“輸出管理セミナー”開催のご案内

本セミナーは、平成22年度地域企業立地促進等事業補助金を活用した、「中部地域航空宇宙関連産業集積活性化活動事業（広域ネットワーク事業）」による、販路拡大支援事業及び、名古屋市が行う「航空宇宙産業地域ブランド発信事業」による海外エアショーアー出展支援の一環として前回に引き続き第2回“輸出管理セミナー”を企画致しました。

今回のセミナーは、国際パリエアショー開催まで残すところ2ヶ月余の準備時間に成っております中、ショーアーに参加される各中小企業・団体様が自社加工品、製造品・技術力などアピールを目的とするサンプル品の輸出に関して必要とされる書類、手続きなどを中心とした内容で開催致します。また、セミナー終了後に個別相談（書類、輸出手続き等）も予定しておりますので併せてご案内いたします。（実務的な内容を中心と致します。）尚、輸出管理セミナーは、今回パリエアショーに参加されない企業・団体様でもご参加頂けますので、別紙参加申込書にご記入の上参加申し込みをお願い致します。お待ち申し上げます。

- 日時 平成23年3月29日（火）午後1時30分～午後5時
- 場所 名古屋商工会議所 5階 会議室D
- 講師（予定）郵船ロジスティクス（株）中日本営業本部 開発課 藤田 聰史 氏
西濃シェンカー 松崎 氏（IPA オフィシャル物流企業）
- 内容（予定） 1. 輸出実務の基本（講師都合で内容変更される場合があります。）
 - (1) 輸出基本業務
 - (2) 輸出通関業務並びに、輸出貿易管理令の基本説明
 - (3) 通関関係書類作成（輸出品評価格等）
 2. 質疑応答
 - 3. 個別相談会（輸出品通関に関する内容等）＊事前申し込み要
- 対象 航空宇宙産業関連に於いて、海外取引（販路拡大）を検討されている企業
- 定員 70名（事前申し込み優先）
- その他 “国際パリエアショージャイフ” 参加出展される企業・団体でのPRカタログ・サンプル出荷する場合の手続き、日程・梱包、ハンドリングを含めご説明致します。

申し込み・問い合わせ先：(社) 中部航空宇宙技術センター 担当 五味（ごみ）・大海
TEL 052-221-6681 FAX 052-218-8528 URL <http://c-astec.jp>

MRO 研究会 委員・オブザーバーリスト

No.	区分	機関名・所属・役職	氏名
1	委員長	学校法人大同大学 工学部 総合機械工学科 機械システム専攻 教授	平 博仁
2	委員	セントラルヘリコプターサービス株式会社 取締役ドクターヘリ推進室長	井手 龍一郎
3		多摩川精機株式会社 第一事業所 所長 取締役本部長	熊谷 秀夫
4		三徳航空電装株式会社 取締役	竹井 逸郎
5		株式会社 JALUX 航空機部品部企画営業チーム マネージャー	田中 康之
6		株式会社 JALUX 航空機部品部 中部出張所	小泉 尚徳
7		ベストテック株式会社 代表取締役社長	鬼頭 誠
8		株式会社中央エンジニアリング 名古屋事業本部長	林 哲史
9		株式会社三光製作所 代表取締役	奥村 清志
10		株式会社磯村製作所 代表取締役	磯村 元威
11		天龍エアロコンポーネント株式会社 取締役 兼 品質保証部長	平田 良三
12		東洋航空電子株式会社 代表取締役社長	千田 勝四郎
13		各務原航空機器株式会社 代表取締役	橋本 繁明
14		—	一杉 秀樹
15	オブザーバー	株式会社青山製作所 常務取締役	井出 正昭
16		住友軽金属工業株式会社 研究開発センター 第六部	佐野 秀男
17		愛知県 産業労働部新産業課 課長補佐	佐々木 靖志
18		岐阜県 商工労働部モノづくり振興課 技術主査	今井 智彦
19		三重県 農水商工部 産業集積室 主事	野崎 稔暉
20		名古屋市 産業部産業育成課 産学連携推進係長	庵地 大成
21		名古屋市 産業部産業育成課 産学連携推進係 主事	恵谷 公亮
22		中部経済産業局 参事官(航空宇宙担当)	彦坂 謙二
23		中部経済産業局 航空宇宙室 産業クラスター専門官	木山 雅之

無人機研究会 委員・オブザーバーリスト

No.	区分	機関名・所属・役職	氏名
1	委員長	株式会社航空システム研究 代表取締役 兼（社）中部航空宇宙技術センター 地域連携マネージャー	炭田 潤一郎
2	委員	東京大学 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 教授	鈴木 真二
3		九州大学 工学研究院 航空宇宙工学部門 准教授	東野 伸一郎
4		(独) 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 無人機・未来型航空機チーム チーム長	佐々 修一
5		(独) 宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 研究開発本部 飛行技術研究センター 研究員	久保 大輔
6		日本電気株式会社 (NEC) 誘導光電事業部 生産技術部 シニアエキスパート	山下 敏明
7		ベストテック株式会社 代表取締役社長	鬼頭 誠
8		株式会社 中央エンジニアリング 名古屋事業本部 技術顧問	柳谷 正史
9		合同会社 X-TREME COMPOSITE JAPAN 代表	角屋 守
10		株式会社ゼノクロス UAV 事業部	満武 勝嗣
11		西脇技術士事務所 所長	西脇 英彦
12		日本飛行機株式会社 航空宇宙機器事業部 参事	近藤 夏樹
13	オブザーバー	愛知県 産業労働部 新産業課 技師	岩川 輝
14		岐阜県 商工労働部 モノづくり振興課 技術主査	今井 智彦
15		三重県 農水商工部 産業集積室 主事	野崎 穎暉
16		名古屋市 産業育成課 産学連携推進係 主事	恵谷 公亮
17		中部経済産業局 参事官（航空宇宙担当）	彦坂 謙二
18		中部経済産業局 航空宇宙室 産業クラスター専門官	木山 雅之
19		中部経済産業局 航空宇宙室 総括係	山口 真吾

ビジネス航空を軸とした次世代型国際都市づくり研究会 委員・オブザーバーリスト

No.	区分	機関名・所属・役職	氏名
1	委員長	学校法人名城大学 アジア研究所所長兼都市情報学部教授	福島 茂
2	委員	朝日航洋株式会社 ビジネスジェット事業本部副本部長	畠 良明
3		中日本航空株式会社 国際ビジネス機事業室長	長江 操
4		愛知県 地域振興部空港長	中西 章二
5		中部国際空港株式会社 執行役員	尾頭 嘉明
6		株式会社百五経済研究所 代表取締役社長	雲井 純
7		ベストテック株式会社 代表取締役社長	鬼頭 誠
8		中日本航空専門学校 校長	浅野 敏美
9		社団法人中部経済連合会 航空担当部長	丹下 知博
10		名古屋商工会議所 企画振興部 基盤整備グループ長	馬場 宏之
11	オブザーバー	三井住友銀行 法人業務推進部 部長	丹羽 秀樹
12		愛知県 地域振興部 航空対策課 課長補佐	筒井 薫生
13		愛知県 産業労働部新産業課 主任主査	舛田 崇
14		岐阜県 商工労働部モノづくり振興課 技術主査	今井 智彦
15		三重県 農水商工部産業集積室 主事	野崎 穎暉
16		名古屋市 産業部産業育成課 産学連携推進係	恵谷 公亮
17		中部経済産業局 参事官（航空宇宙担当）	彦坂 謙二
18		中部経済産業局 航空宇宙室 総括係	山口 真吾

